

2022年「ハノイ国際セミナー」  
ベトナムにおける日本語教育の多角的な視点から考える  
ーアジアと日本における外国人材の雇用と定着を考えるー 報告

2022年9月17日18日の2日間にわたりハノイ国家大学外国語大学にて、「ハノイ国際セミナー」が開催されました。本セミナーは2019年インドネシアのバンドンにて第1回の開催があり、続く2020年に第2回の開催が予定されていたのですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、開催の延期を余儀なくされました。それでも、今年の同時期9月19日には、プレセミナーとしてオンラインでの国際セミナーを開催しています。今回はこれに続き、ベトナム現地での開催が実現しました。しかしながら、日本や他国からは未だ渡航が困難な状況もあったことから、現地会場とオンライン参加を併用したハイフレックスでの開催となりました。

【協働実践研究会パネルディスカッション】9月17日 10:30～12:00  
SUNWAH ホール 会場参加者 約150名 Zoom参加者 約70名  
『日本語教育の協働実践研究のためにーベトナムの教師コミュニティ構築の意義と可能性ー』池田玲子・張瑜珊・グエンティエー・フオン・チャー・近藤彩

協働実践研究会は、「パネルディスカッション(90分)」と「教師研修会(90分)」の時間をもちました。協働実践研究会パネルディスカッションは、「協働学習による授業実践の可能性ーベトナムの教師コミュニティ構築の意義と可能性ー」のタイトルで、池田の司会進行のもと、3名のパネリストが登壇しました。まず、池田から協働実践研究会の紹介と本セミナーの趣旨説明を行いました。本セミナーの趣旨は、グローバル社会の人材育成という社会的な要請と教育研究の成果の還元の見点から、ベトナムの日本語教育の転換のために教師コミュニティ構築の必要性を提言することでした。つづいて、第一のパネリスト張瑜珊さん(台湾東海大学)からは、「台湾の協働実践研究会設立の経緯」について紹介があり、このプロセスで起きる問題をどのように克服してきたのかについて報告しました。第二のパネリストのグエンティエー・フオン・チャーさん(フエ外国語大学)からは、フエ外国語大学日本語日本文化学部の日本語教育が協働学習への転換をめざし、現在までにどのような取り組みを行ってきたのかについて報告がありました。第三のパネリスト近藤彩さんからは、日本とベトナムの関係において日本語教育にはどのような課題があり、この解決のために、コロナ禍での2年間にベトナムの2つの大学の日本語教師対象の教師研修を行った事例の紹介がありました。とくにオンライン研修の可能性についても新たな研修の方法としての可能性が語られました。全体討論としては、ベトナム人教師の研修の重要性から、この実現において現地の教師コミュニティ構築がいかに重要であるかの議論をしました。会場からは、日本語教師対象の研修だけでなく、日本語人材の受け入れ先である企業側にも同様

の研修が必要ではないかという指摘がありました。これについては、協働実践研究会ではビジネス日本語コミュニケーションの分野の開発を進めていることを説明しました。今後、ベトナムの日本語教育はどのように社会の要請と教育研究の成果に基づく教育のあり方を開発していくのかについて各パネリストからの意見と会場からの意見を共有しました。

最後に、協働実践研究会ハノイ支部代表者のハノイ大学のランアインさんからの現況報告があり、ハノイ国際セミナー開催を機に、協働実践研究会ハノイ支部の今後の活動への期待が高まりました。



9月17日 パネルディスカッションの様子

【協働実践研究会教師研修】9月18日 8:30~10:00 SUNWA2階講義室

会場参加者 23名 Zoom参加者37名

『協働学習入門講座』池田玲子・鈴木秀明

本研修では、協働学習に初めて取り組む実践者（教師）や協働学習の実践に疑問や課題をもつ教師のために、協働学習の基礎的な理解から授業実践のポイントを示す内容としました。参加された方々には、講義だけでなくできるだけピア体験的を通じて体感してもらうことを狙いとしました。

まず、協働学習の定義を解説し、アクティブラーニングと言われる教育概念と協働学習の関係について理解してもらいました。その後、これを初級から具体的にどのように授業で実践するのかについては、初級クラスの活動デザインをもとに、参加者には体験的を通じた理解を求めました。最後に、ケース学習の紹介を行ったのち、日本からオンライン参加の鈴木秀明さん（目白大学）がご自身の授業でどのように授業実践されたのかの事例を3つ紹介されました。この3つの事例は、それぞれ授業科目や教室サイズ、コースデザインの異なる事例でした。コースの一部にケース学習を取り入れる、または、コース内の3回ほどをケース学習にする、あるいは、コース全体にケース学習を採用するという例でした。これらは、今

後、さまざまなベトナムの教室においてケース学習が実際にどのように実践可能なのかを教師自身が検討していくための有用な事例だったことが予想されました。会場にはハノイ国家大学の学生さん5名が参加していたので、体験活動での彼女らの活動参加ぶりが参加教師たちには非常に参考になったのではないかと予想されました。

**【ポスター発表】 9月18日 6つの会場とオンライン発表**

協働実践研究会からは、9本のポスター発表がありました。現地での発表は3つありました。いずれもフエ外国語大学の教師たちの実践研究の発表でした。オンライン参加者は、日本から6本の発表がありました。内容は日本とベトナムの実践についての研究があり、また、日本語教育だけでなく、他分野の協働実践の報告もありました。まさに、多様な視点から協働実践を捉えるポスター発表が実現できたと思います。

文責：池田玲子